

# 特別支援教育部会

## 2017年度の実践研究の経過と成果、および次年度の方向性

### 1. 実践研究の経過

#### (1) 部会役員研修会による研究経過

- 5月 8日 (月) 課題部会合同役員研修会  
第1回役員研修会
- 6月13日 (火) 第2回役員研修会
- 8月22日 (火) 拡大役員会 (ワークショップ研修)  
第3回役員研修会
- 9月 5日 (火) 石教研課題部会研究協議会

#### (2) 部会役員研修会での研究成果

2回に渡り、課題部会研究協議会の具体的な方法について研修を行った。昨年度の反省及び小中の人数の割合を考慮し、今年度については第1・第2分科会についてはレポート交流研修の後、両分科会をシャッフルする形で2つに分けて、ワークショップ型の学習会「インシデント・プロセス法」を行うことに決定した。また、第3分科会については、昨年度より行っているテーマ別交流研修を第2部に行うことになった。役員会では部会としての課題意識をしっかりと高め、改善・修正を加えながら、当日に臨むことができたと考えている。

### 研究方法

#### (1) 交流計画

前半は実践レポートの交流、後半はワークショップ形式の学習会及びテーマ別討論を中心に南北2ブロック、研究内容別の分科会で交流する。

#### (2) 分科会構成

- 北ブロック会場 石狩市立緑苑台小学校 3分科会
- 南ブロック会場 恵庭市立恵庭小学校 3分科会

- 第1分科会 「通常学級における学習に困難のある児童生徒への支援について」
- 第2分科会 「通常学級における社会性の発達の遅れやコミュニケーションに障がいがあり、主に集団での生活場面に困難のある児童・生徒の支援について」
- 第3分科会 「通常学級における特別支援を要する児童生徒の校内支援体制や関係機関との連携のとり方について」

### 2. 課題部会研究協議会での交流

※各ブロックの交流内容の詳細については、2月発行の「石狩の教育」をご参照ください。

### 3. 部会研究の成果と課題

#### 【研究内容1】 学習に困難のある児童生徒の支援

保護者との信頼関係を結ぶことや、通常学級と特別支援学級との連携による指導を通し、児童生徒にとっての必要な支援を探っていくなどの実践報告が多く出された。また、ユニバーサルデザインの学習環境やICTの活用などの有効な取り組みが紹介された。小学校から中学校への学習面での連携の取り方など、新たな課題も見いだせたので、今後も部員が活用できる実践を交流し合えるように、時間の取り方や交流の仕方の工夫を検討していく。

#### 【研究内容2】 主に集団での生活場面に困難のある児童生徒への支援

個々の障がいまたは行動上の特性の理解に基づいた支援について交流を深めることができた。また、通常学級と支援学級との連携や、児童の持つ特性についての保護者との共通認識の必要性など、より具体的な支援場面における困り感についても話題になった。年々増加していく課題でも有り、今後も色々な実践の交流を通してより具体的な解決ができるようにしていきたい。

#### 【研究内容3】 通常学級の特別支援を要する児童生徒の校内支援体制や関係機関との連携の取り方

様々な関係機関との連携の取り方、学級担任とコーディネーターの連携、教育相談のあり方など、現場で直面している悩みなどが出された。その中でも今後、中学校で通常級から高等支援への進学を考える場面が多くなることから、次年度は、高等支援学校の先生を招いての講演を持ち、部員の課題解決の一端になればと考えている。

#### 【ワークショップ研修会】

例年、事例提供者には苦勞するところである。次年度については「1回休み」になるため、より主体的に参加できる研修会にするためにはどうすべきかを、大きな課題として役員会で検討したいと考えている。参加された方からは好評だったこともあるので、なんとか基本線を崩さないような形で行いたいとは考えている。

### 4. 次年度に向けて（詳細は、1月に発行予定の部会便りをお待ちください）

\*次年度は、今までも会員アンケートよりリクエストのあった「講演会」を予定している。今年のアンケートにも記載したが、皆様から出された「聞いてみたい内容」をまとめたものを、講師となる高等支援学校の先生と打ち合わせ、次年度の部会便りで詳細をお知らせしたいと考えている。

\*レポートについて、全員出さなくてもというご意見もいただいた。隔年でレポート交流とその他の研修を分けて行っている部会もあると聞いている。本部会については来年度初めての講演会開催ということ、持ち寄ったレポートの交流を通して得るものが大きいことなどを考慮し、次年度も前半はレポート交流会を行いたい。ただし、個人レポートが難しい場合は、学校単位もしくはグループ単位での作成でもよいと考えている。

また、レポート作成に当たっては、児童生徒の個人が特定されるような情報の漏洩に気をつけていただきたい。インシダルであっても、あまりに具体的な事例であれば文書として記載するのではなく、口頭での交流にとどめたい。

※その他の回答内容については、別添のアンケート集約結果をご覧ください。

今年度の研修へのご協力、ありがとうございました。